

20020648

以降P63－P102は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので
P57－62「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください

V. エイズ対策研究推進事業
研究成果等普及啓発事業

[研究成果等普及啓発事業]
(エイズ対策研究推進事業)
結 果 報 告 書

1. ニヶ所の発表会開催者

鹿児島県：中川 昌之 鹿児島大学医学部泌尿器科学教室 教授

福 井 県：小辻 文和 福井医科大学産科婦人科学教室 教授

2. 開催日時・場所

鹿児島県：平成 14 年 11 月 16 日（土）14 時 00 分～16 時 30 分

鹿児島商工会議所 4 階 アイムホール（鹿児島市東千石町 1-38）

福 井 県：平成 15 年 3 月 29 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分

福井商工会議所 B1 コンベンションホール（福井市西木田 2-8-1）

3. 共通発表テーマ：「若者と性の健康」（チラシ、ポスター参照）

4. 発表会参加者

鹿児島県：180 名

福 井 県：142 名

5. 発表内容とその成果

わが国の STD/HIV 感染に関する医学的疫学的研究は、かなり高いレベルにあるにも拘らず、それが一番感染を予防するための危機意識を持たねばならない一般市民に情報として流されていない。そのため医療先進国としては異常な程の STD の流行、そして性感染症としての HIV 感染数の急上昇が見られている。

このギャップを埋め、一般市民に適切かつ理解しやすい STD/HIV 感染の情報を提供し、わが国が STD/HIV 感染大国にならないようにすることが、今や公衆衛生行政上の急務である。そこで今回、わが国の STD および HIV 感染の実態を公表し、問題点を明らかにし、一般市民に予防のための正しい知識を普及・啓発する目的で本公開セミナーが開催された。

鹿児島県：第 1 部公開セミナーでは、川原元司先生が「鹿児島県における性感染症の現状」と題し、鹿児島県における性感染症の現状を報告した。鹿児島県のクラミジア、ヘルペス、尖形コンジローム感染率は全国平均レベルにあり、淋菌感染症については全国平均の数値を上回り、薬剤耐性菌が増えていると述べた。また、性感染症が若年層で著明に増加していることを強調した。

沖 利通先生は「若年女性の性感染症の問題点」という演題名で産婦人科医としての臨床的な話を中心に講演した。例を挙げて性感染症の恐さを語り、性感染症が不妊症や子宮外妊娠の原因となり得ると指摘した。また、性感染症とともにエイズも増えていると述べ、21世紀は産婦人科医にとって非常に危惧される事態が起こってくると考えていると語った。

今井博久先生は「無症候クラミジア感染症の大規模調査」と題し、世界でも日本でも性感染症で最も患者数の多いクラミジアを中心に話をした。現在実施中の大規模調査で、一般の若い人（18～22 歳）におけるクラミジア感染症の陽性率が男 9%、女 13%、全体で 12%であると発表した。そして欧米に比し、高い感染率、無防備な状況、咽頭に多いことを指摘し、予防医学の立場から、学校スクリーニングの必要性を語った。

熊本悦明先生は「若い人に大流行している性感染症」という演題名で、性感染症が無症状化してきていること、また一番問題なのはエイズであるが、日本は非常に危険な状態にあること、若い人、特に若い女性に増えて来ていることを指摘した。さらに、性の影としての望まざる妊娠の結果、10代の人工妊娠中絶が増えている。そして、高校生が性の影の影響を受けており、性教育が焦点であると述べた。

福井県：公開セミナーでは、小辻文和先生を座長に以下の 4 先生が講演した。

熊本悦明先生は「10 歳台後半女性の性の影－性感染症感染率と人工妊娠中絶率の急上昇をめぐって」と題し、女性のクラミジア感染を中心に講演した。性感染症は昔の“遊んでいる人たちの病気”から、今や、無症候の性感染症が普通の人たちの性生活の中に入ってきて“生活環境汚染”と行ってよいほど広がっていると指摘した。特に若い女性は身体的にも非常に感染しやすく、危険な状況に置かれている。これを放置すると、不妊症、流早産などの問題を起こし易く、エイ

ズにもかかり易くなり、将来にも影響を及ぼす非常に重要な問題であると述べた。また、性行動の自由化が進み、無症候の性感染症を広げる追い風となると同時に、10代、20代前半の望まざる妊娠が増えてきていると指摘した。その予防には、高校生の性教育がキーポイントなるだろうと強調した。

木原正博先生は「日本のエイズ流行の展望」と題し、世界、アジア、そして日本のエイズ流行の現状を説明した。流行の中心はアフリカであるが、最近では旧ソ連諸国、アジアで増えている。そして、これまでの規範にしばられない新しい性行動の広がりエイズウイルスを拡散させ、アジアのエイズ流行はこれからが本番になると述べた。この流行の波が日本に押し寄せ、新しい流行のフェーズに入ってくると指摘した。

エイズ流行の規模、速度を決定するのは、性的ネットワークであり、治癒薬、ワクチンの開発が暗礁に乗り上げている現状では、安全な性行動をすることが残された武器であり、この流行を広げないことが重要であると述べた。日本は先進国で唯一エイズ患者が増え続けている国であり、2001年には若者の感染者が急に増え始めたが、その背景にあるのは、ピルもコンドームも使わないという驚くべき性行動であると指摘した。

鈴木秀文先生は「産婦人科診療の現場からみた性感染症」という演題で、福井の現状も含めながら、来院する人の性感染症について講演した。

福井でも最近人工妊娠中絶が増えており、若い女性のセックスの敷居が低さが明らかであると感じている。性感染症で最も多いのがクラミジア感染であるが、厄介なのは症状がないことで、これが数年後の子宮外妊娠や不妊症という悲劇を引き起こすと述べた。また、若い来院者に接する時、出会い系サイトの果たす役割、携帯電話の存在が性行動に影響を与えているのではないかと指摘した。そして性感染症の予防は、知識を持ち、安易なセックスの危険性を認識し、コンドームを付ける・付けさせて、自分の身を守ることであると語った。

西野和代先生は「学校における性教育の現状」と題して教育現場における性教育の実態について講演した。

先ず始めに、文部省による性教育の指導内容が女子の初潮教育からエイズ、性感染症、コンドームの使用へと変わってきたことを述べた。そして福井県においては、エイズ教育のためのパンフレットの作成・配布、講習会が開催されていること、また、個別指導、ピアカウンセリング・エディケーションの授業を取り

入れている学校がたくさんあると語った。まだまだやるべきことがあるが、受験が目の前にあると、カリキュラム上、一斉指導が精一杯の状態であると述べた。しかしながら、エイズをなくすには、学校教育で正しい知識を教えていくことが重要であると強調した。

次のパネルディスカッションにおいては、二ヶ所の開催県の受講者から、性感染症／エイズの検査・診断法、治療法、予防対策、及び性行動、性教育に関する多くの質問があり、熱心なディスカッションがなされ、性感染症／エイズに関する関心の高さが示された。

以上のように、今回の公開セミナーは、一般市民に対してわが国における STD／エイズ蔓延の状況および変化している性行動の実態を報告し、かつ性感染症／エイズ予防に関する正しい知識を普及・啓発する上で極めて有益であった。

添付資料一覧

○ 鹿児島県

1. 配布チラシ 1枚
2. ポスター 1枚
3. 南日本新聞（11月16日）朝刊社会面記事 コピー1枚
4. アンケート集計

○ 福井県

1. 配布チラシ 1枚
2. 日刊県民福井（3月30日）ふくい社会面記事、及び
毎日新聞（3月30日）福井地域のニュース面 コピー1枚
3. 福井新聞（3月28日）医療短信記事 コピー1枚
4. 福井新聞 HP (<http://www.fukuishimbun.co.jp/topics.php?code=1749>)
5. 日刊県民福井 HP
(http://www.kenmin-fukui.co.jp/00/fki/20030327/lcl_fki_009.shtml)
7. アンケート集計

11月16日(土)

鹿児島商工会議所 4階 アイムホール
鹿児島市東千石町 1-38 (TEL 0992-25-3981)

厚生労働科学研究
エイズ対策研究事業発表会

入場無料
(定員約200名まで)

開演：14：00～16：30 (開場13：30)

若者と性^性の健康

— 性感染症／エイズの現状と対策 —

総合司会 青木 隆子 鹿児島テレビ (KIS) アナウンサー
座長 中川 昌之 鹿児島大学医学部泌尿器科学教授

第1部

公開セミナー 14：00～15：20

1. 鹿児島県における性感染症の現状

川原 元司 鹿児島大学医学部泌尿器科学助教授

2. 若年女性の性感染症の問題点

沖 利通 鹿児島大学医学部泌尿器科学助教授

3. 無症候クラミジア感染症の大規模調査

今井 博久 西門医科大学公衆衛生学助教授

4. 若い人たちに大流行している性感染症

熊本 悦明 厚生労働科学研究エイズ対策研究事業主任研究員
財団法人性の健康医学財団名誉会頭

第2部

パネルディスカッション 15：30～16：30

今、性感染症／エイズの大流行を考える

— 無症状の性感染症とその予防対策 —

パネリスト 川原元司、沖 利通、今井博久、熊本悦明、中川昌之



若者と性の健康 公開セミナー

司会・講師 プロフィール

Profile

総合司会

青木 隆子

Ryuko Aoki

KTS 鹿児島テレビ・アナウンサー

略 歴

福岡県出身 成城大学経済学部卒
現在「ぐっとグッドかごしま」(毎月第1日曜・午前9時～)
「話題沸騰!お茶ドキッ」(毎週月曜・午後3時半～)など担当
医療や健康に関する特集レポートも多い



座 長

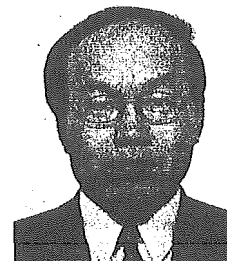
中川 昌之

Masayuki Nakagawa

鹿児島大学医学部泌尿器科教授
医学博士
日本泌尿器科学会指導医・評議員

略 歴

昭和30年 大分県生まれ
昭和56年 熊本大学医学部卒業
昭和56年 熊本大学医学部附属病院研修医
昭和58年 大分医科大学泌尿器科助手
昭和63年 学位(医学博士)取得
平成元年 アメリカ国立がん研究所客員研究員(2年間)
平成4年 大分医科大学泌尿器科講師
平成8年 大分医科大学泌尿器科助教授
平成11年 現職



講 師

川原 元司

Motoshi Kawahara

鹿児島大学医学部泌尿器科助教授
医学博士 日本泌尿器科学会指導医
日本性感染症学会会員
県感染症発生動向調査企画委員会委員

略 歴

昭和30年 鹿児島県生まれ
昭和54年 鹿児島大学医学部卒
平成2年 米国チュレーン大学医学部留学
平成4年 鹿児島大学医学部附属病院講師
平成13年 現職

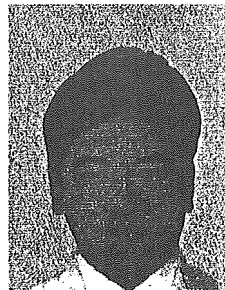


講師

沖 利通

Toshimichi Oki

鹿児島大学産科婦人科学助手
 日本産科婦人科学会会員 日本不妊学会評議員 細胞診指導医



略 歴

昭和36年 鹿児島県生まれ
 昭和60年 鹿児島大学医学部卒業
 昭和60年 鹿児島大学医学部附属病院産科婦人科医員研修医
 平成1年 鹿児島大学医学部附属病院産科婦人科医員
 平成4年 現職

講師

今井 博久

Hirohisa Imai

宮崎医科大学医学部公衆衛生学講座講師
 医学博士



略 歴

1993年3月 旭川医科大学医学部卒業
 1993年6月 国立東京第二病院内科入局
 1995年4月 北海道大学大学院医学研究科博士課程入学
 1999年8月 米国ジョージア医科大学医学部訪問助教授
 2000年4月 慶應義塾大学医学部医療政策管理学教室助手
 2001年4月 現職

所属学会

日本内科学会 日本公衆衛生学会 日本衛生学会 日本病院管理学会
 日本性感感染症学会 Academy for Health Services Research and Health Policy
 American Public Health Association

受 賞

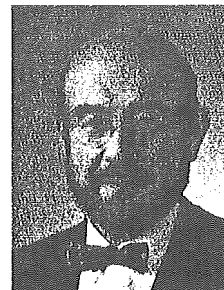
1999年3月 北海道医学会賞 (北海道医学会)
 2001年3月 最優秀国際フェロー賞 (Kerr L White 研究所)

講師

熊本 悦明

Yoshiaki Kumamoto

札幌医科大学名誉教授
財団法人性の健康医学財団名誉会頭
日本エイジング・メール研究会代表



略歴

昭和30年 東京大学医学部卒業

役職

日本性感染症学会理事長（昭和62年～平成6年、平成10年～11年）
厚生省公衆衛生審議会委員（平成5年～11年）
WHO性感染症関連委員会委員

主催学会

昭和63年 第7回日本思春期学会会長
平成1年 第8回日本アンドロロジー（男性科学）学会会長
平成2年 第78回日本泌尿器科学会会長
平成5年 第4回日本性機能学会会長
平成6年 第8回国際エイズ学会副会長
平成8年 第16回日本性科学学会会長

受賞

志賀潔・秦佐八郎賞（平成7年）
厚生省 保健文化賞（平成12年）

MEMO

A series of horizontal lines for writing a memo, enclosed in a dotted border.

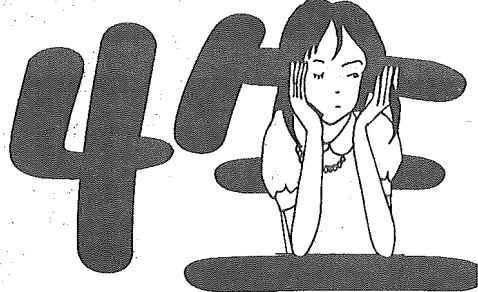
11月16日(土)
鹿児島商工会議所
4階アイムホール
鹿児島市東千石町 1-38
(0992-25-3981)

入場無料
(定員約200名まで)

厚生労働科学研究
エイズ対策研究事業発表会

開場
13:30
開演
14:00~16:30

若者と



性の健康

性感染症/エイズ
の現状と対策

総合司会 青木 隆子 鹿児島テレビ (KTS) アナウンサー
座長 中川 昌之 鹿児島大学医学部泌尿器科学教授

第1部 公開セミナー

1. 鹿児島県における性感染症の現状
川原 元司 鹿児島大学医学部泌尿器科学助教授
2. 若年女性の性感染症の問題点
沖 利通 鹿児島大学医学部産科婦人科学助手
3. 無症候クラミジア感染症の大規模調査
今井 博久 宮崎医科大学公衆衛生学講座講師
4. 性のあるところ感染あり
熊本 悦明 厚生労働科学研究エイズ対策研究事業主任研究者
財団法人性の健康医学財団名誉会頭

第2部 パネルディスカッション

今、性感染症/エイズの大流行を考える

パネリスト 川原元司、沖 利通、今井博久、熊本悦明、中川昌之



主催 (財) エイズ予防財団
後援 (財) 性の健康医学財団、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、
鹿児島性感染症研究会 ほか
事務局 鹿児島大学医学部泌尿器科学教室 (FAX 099-265-9727)

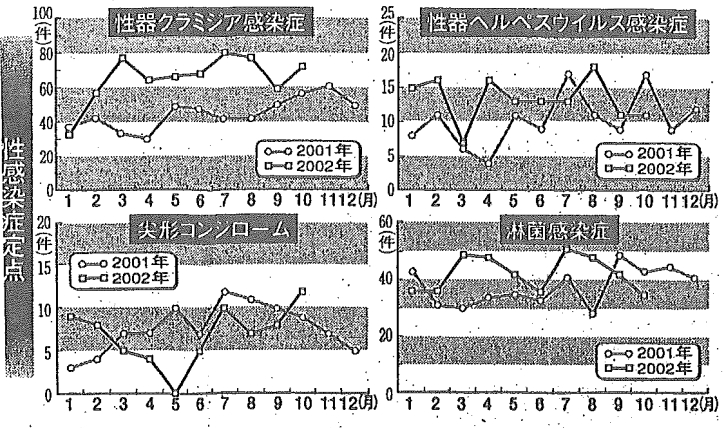
鹿県内で性感染症増加

01年 7割以上が10、20代

鹿児島県内で性器クラミジア、淋菌感染症といった性感染症が増えている。性行為で感染するこれらの病気の七割以上が二十代以下に集中しており、若者の性の乱れが懸念されている。

今年も 高推移 エイズや不妊症懸念

県内十六の指定届け出 染状況によると、性器クラミジア、淋菌感染症、梅毒、尖形コンジローム、淋菌の報告を鹿児島県がまとめた二〇〇二年の感



感染症の患者合計は千二百八十人。そのうち二十九歳以下の若者は八百七十七人で全体の72%、十代は二百一人で16%だった。今年も増加傾向に歯止めはかからず、十月までに合計で千二百七十六人など、感染症予防法が改正された一九九九年以降最も多かった昨年をすでに上回った。特に性器クラミジアは二月以降、前年を下回ることもなく高い感染

数で推移している。性器クラミジアに感染すると、二週間ほどの潜伏期間を経て尿道炎を起す。排尿時に痛みとともに出たりするが、女性はおりものと勘違いして放置すると、子宮けい管炎や子宮内膜炎などを起し不妊症になる場合もあるという。

県健康増進課の福盛順子課長は「性感染症にかかるとエイズウイルスに感染する危険性が高くなるほか、女性は体に受けるダメージが大きい。若

者の中には不特定多数の性交渉相手を持つ人がいるようだ。病気の予防や避妊も大事だが、もっと体のことを考えた行動をとってほしいと訴えた。

性感染症の現状 考えるセミナー 香川県高松市

エイズ予防財団は十六日午後一時から、鹿児島市のアタイムビルで「若者と性の健康―性感染症/エイズの現状と対策」をテーマにセミナーを開く。

全国的に増加傾向にあるクラミジアなどの性感染症やエイズウイルス感染について、性の健康医学財団の熊本悦明名誉会頭らが、現状や問題点を話す。

入場無料で定員は二百人。座長を務める同大医学部泌尿器科学教室の中川昌之教授は「症状が出にくいケースでは、患者が気づかずにまん延させ

ており、もはや疫病に近い状態。若者や親をはじめ行政、教育、医療関係者らみんなで現状を認識

して、病気の恐ろしさを対策を考える時期だ」と話した。

南日本新聞 (11月16日) 朝刊社会面記事

<性感染症についてのアンケート集計-> 鹿児島(2002年11月16日実施、参加人数180人、アンケート回収120人)

○年齢 (人)

年齢	~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40歳以上	NA	合計
全体	43	13	8	13	40	3	120
医療関係者	1	5	0	7	10	1	24
その他の職業	42	7	7	5	25	0	86
NA	0	1	1	1	5	2	10

○性別 (人)

性別	39歳以下			40歳以上			合計
	男	女	NA	男	女	NA	
全体	6	71	0	7	33	0	40
医療関係者	0	13	0	1	9	0	10
その他の職業	6	55	0	3	22	0	25
NA	0	3	0	3	2	0	5

○職業

職業	39歳以下		40歳以上		合計
	人	人	人	人	
医師	0		1		1
看護婦・看護師	6		3		9
助産師	3		4		7
保健師	0		1		1
看護教員・看護学専攻大学生	2		0		2
その他の医療関係者・従事者	2	13	1	10	25
会社員	3		2		5
学生	41		0		41
教員・教諭	7		10		17
研究員	0		0		0
公務員	2		6		8
自由・サービズ	0		0		0
養護教諭	6		6		12
土木関係	1		0		1
主婦・家事手伝い	0		0		0
農業	0		0		0
その他(相談員)	0		0		0
無職	1	61	0	25	67
無回答	3		5		8
計	77		40		117

○既婚・未婚

	結婚		NA	合計
	している	していない		
39歳以下	12	64	1	77
全体	6	6	1	13
医療関係者	6	55	0	61
その他の職業	0	3	0	3
40歳以上	36	4	0	40
全体	10	0	0	10
医療関係者	21	4	0	25
その他の職業	5	0	0	5
NA	2	1	0	3
全体	1	0	0	1
医療関係者	0	0	0	0
その他の職業	1	1	0	2
NA	1	1	0	2

＜性感染症についてのアンケート＞

性の健康医学財団では、性感染症が最近いろいろ問題を起こしておりますので、このようなパンフレットを作りました。そこで、皆様が性感染症についてどの程度知っておられたか、また性感染症についてのご意見を伺いたく、アンケート調査を行っております。これからの啓発活動に大変参考になりますので、是非ご記入いただきたく、ご協力の程お願い申し上げます。

＜ご年令＞	才	＜性別＞	男	女	ご職業
＜結婚＞	している		していない		

- <1> 知っている性感染症の名前に○をつけてください。
- a. 梅毒 b. 淋菌感染症 c. クラミジア感染症
d. 性器ヘルペス e. 尖形コンジローム f. トリコモナス
- <2> 今までにかかった性感染症がありますか。かかったとしたら下記のどれですか。
○をつけてください（2つ以上でも○をつけてください）。
- a. 梅毒 b. 淋菌感染症 c. クラミジア感染症
d. 性器ヘルペス e. 尖形コンジローム f. トリコモナス
- <3> 性感染症について、次のことで正しいと思われるものに○をつけてください。
- a. 今流行している性感染症は、あまり症状が出ないものが多い。
b. エイズは性感染症である。
c. 上記の<1>に書いたような性感染症にかかっていると、エイズに3倍も4倍もかかりやすい。
d. 子宮頸癌も、性感染症であるヒト乳頭腫ウイルス感染と極めて深い関係がある。
e. クラミジア感染症が若い女性の間で大流行している。
f. クラミジア感染症には性生活をもっている人は誰がかかってもおかしくない。
g. クラミジア感染症になると不妊症や流産・早産になりやすい。
- <4> コンドームは何のために使いますか。
- a. 避妊のため b. 性感染症予防のため c. 両方のため
- <5> コンドームの使い方。
- { a. 決まったパートナーの時は、 いつも 時々 使っていない
 b. 不特定のパートナーの時は、 いつも 時々 使っていない
- <6> コンドームを使う場合、性交渉のどの時点から使ってますか。（書きにくいかも知れませんが、是非書いてください）
- a. 始めから（口の時から） b. 始めから（性器接触から） c. 射精直前に
- <7> ご意見があれば、是非お書きいただければ幸いです。

ご協力ありがとうございました。

厚生科学研究：STD/HIVの情報分析研究班（班長 熊本悦明）

若者と性の健康

今 エイズ／性感染症の大流行を考える

総合司会 上田 千華 NHK福井放送局キャスター

公開セミナー

座長 小辻 文和 福井医科大学産科婦人科学教室 教授

- 1 10歳台後半女性の性の影
—性感染症感染率と人工妊娠中絶率の急上昇をめぐって—
熊本 悦明 厚生労働科学研究エイズ対策研究事業 主任研究者
(財)性の健康医学財団 名誉会頭
- 2 日本のエイズ流行の展望
木原 正博 京都大学大学院医学研究科国際保健学講座 教授
- 3 婦人科診療の現場からみた性感染症
鈴木 秀文 福井愛育病院 産婦人科部長
- 4 学校における性教育の現状
西野 和代 福井市立明道中学校 養護教諭

— 休憩 —

パネルディスカッション

今 エイズ／性感染症の大流行を考える

パネリスト：
熊本 悦明、木原 正博
鈴木 秀文、西野 和代
司会：岡田謙一郎
福井医科大学副学長

主催
(財)エイズ予防財団
後援
(財)性の健康医学財団
福井市医師会
福井市教育委員会
NHK福井放送局
福井新聞社
福井県泌尿器科医会
福井県産婦人科医会

事務局
福井医科大学産科婦人科学教室
TEL : 0776-61-8392
FAX : 0776-61-8117

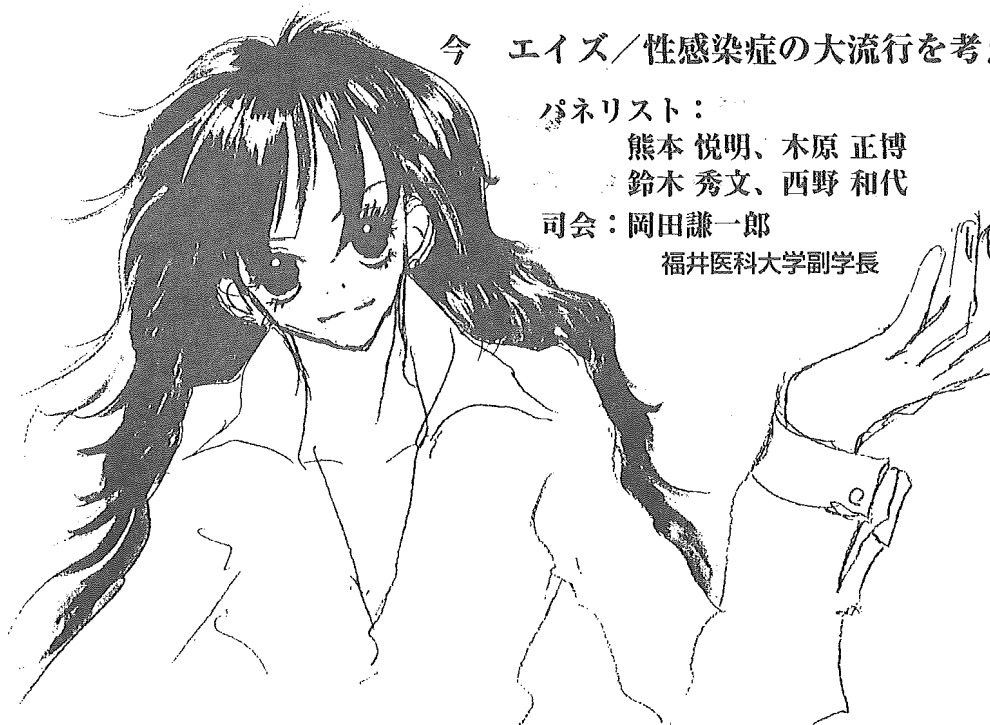
入場無料

厚生労働科学研究
成果発表会

福井商工会議所
コンベンションホール
(福井市西木田2-8-1)

平成15年3月29日(土)

13時30分～16時30分
(開場：13時00分)

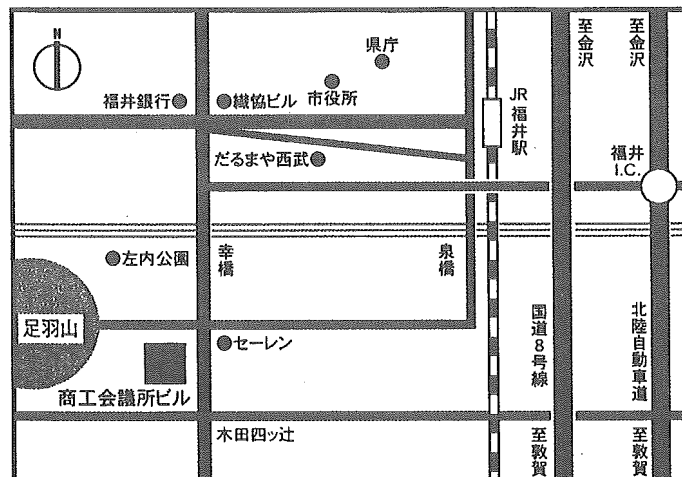


厚生労働科学研究「エイズ疫学研究班」研究者

熊本 悦明	(財)性の健康医学財団 名誉会頭
堀口 雅子	性と健康を考える女性専門家の会 会長
野々山未希子	国立国際医療センター 患者支援調整官
島崎 継雄	日本性科学情報センター 所長
加藤 貴彦	宮崎医科大学 教授
今井 博久	宮崎医科大学 講師
齋藤 益子	東邦大学医学部 教授
松田 静治	江東病院 顧問

会場案内図

福井商工会議所B1 コンベンションホール
〒918-8580 福井市西木田2-8-1



性感染症の怖さ訴える

若者向け実態や予防法紹介 セミナー

福井

また、福井愛育病院の鈴木英文産婦人科部長は

「感染した場合には不妊症、子宮外妊娠などの危険がある」と性感染症の悪影響を強調。若年層の性の乱れについても指摘し「患者に出会い系サイトで知り合った男からうつされた未成年者もいた。性感染症に関する知識が不足している」と話した。

若者を中心に性感染症やエイズ(AIDS)への理解を深めてもらう公開セミナー。若者や性の健康(エイズ予防財団主催)が二十九日、福井市の福井商工会議所ビルで開かれた。県内外の研究者や医療関係者など専門家四人が、感染症の実態と恐ろしさを参加者に訴えた。

セミナーは、近年特に十歳代の若者間で性器クラミジアなどの性感染症感染(STD)がまん延しているのを受け、開かれた。



性感染症の恐ろしさなどについて話す熊本悦明名譽会頭＝福井市の福井商工会議所ビルで

若者世代を中心に約百三十人が参加し、講師四人はそれぞれの立場から研究や分析を紹介。このうち、性感染症研究の第一人者で性の健康医学財団の熊本悦明名譽会頭は、性器クラミジアについては「無症状で特に若い女性がかかりやすい」として、患者数は「推計だが、千八百歳の女性の場合、千五百人の有効性を訴えた。

日刊 早稲福井 (中日新聞系)

エイズや感染症 予防しよう

若者に性に関する正しい知識を得てもらい、エイズや性感染症を予防しようと20日、福井市の福井商工会議所でセミナー「若者と性の健康」(エイズ予防財団主催)が開催された。県内でも若者の性感染症が増加しており、セミナー事務局が県内の病院や中、高校にパンフレットを配布したことなどから、20歳前後の女性を中心に約120人が参加した。

木原正博(京都大学教授が、先進国で日本だけエイズ患者が増加している現状や背景を説明。鈴木秀文・福井愛育病院産婦人科部長は、県内で人工妊娠中絶率が急上昇している状況を踏まえ「若者の間で性の教育が低くなった」と指摘。性感染症が新生児に与える影響などを説明した。

【川口裕之

福井 女性を中心に若者120人参加

怖い性感染症

不妊、子宮外妊娠...

いちおし 話題

県内の若者にも広がっている性感染症。特にクラミジアがここ数年で急増。女性には無症状の人

も多く、知らないうちに重症化。不妊症の原因になったり、新生児に母子感染する恐れがあるという、実は怖い病気。専門医らは「無防備に、不特定多数の相手とセックスしないように」など注意を呼び掛けている。

▼多い無症状

県内五医療機関の定点

十代のある女性の場合

県内でも若者急増

無防備な性交渉 注意を

調査で、クラミジア患者は二年連続で百五十人を突破。原因として宮越洋二・二州保健所長（産婦人科医）は、性行為年齢の若年化、性行動の過度の自由化、多様化を挙げ

る。最近では援助交際や出会い系サイトが原因だと指摘する医師もいる。

受診した時は感染一、二月で、卵管が詰まって、クラミジアは治ったが、気づくのが遅く不妊症になったという。

このほど福井市内で開かれた医師らの勉強会

「福井性感染症研究会」では、クラミジアなど、感染するリスクもあるという。宮越さんは「医師が積極的に学校や地域で、性的に関する教育に携わることが必要」と話している。

主な性感染症の症状や治療法

	症 状	治 療
クラミジア	男性はペニスからの異常分泌液。潜伏期間は1～3週間。女性は膣からの分泌物増加や不正性器出血などだが無症状のケースも多い	抗生物質の内服
淋菌感染症	男性はペニスからの粘液質の分泌物。排尿痛あり。女性は膣からの分泌物増加や排尿痛。男性に比べると症状は軽い	〃
梅毒	性器にしこりができ、足のつけ根のリンパ節がはれる。全身に発疹	〃
単純ヘルペス	潜伏期間2～20日。性器に水ぶくれ、かきようができる。初感染では激しい痛みあり。疲労やストレスで再発する	抗ウイルス剤の内服、抗ウイルス剤入りの軟こう
尖形コンジローム	数週間～2、3カ月後に、性器周辺や肛門周辺にイボ状の小さなしゅようが多発	外科的切除軟こう

知識を得ること。不特定多数の相手とのセックスはもろ危険。確実性が高いのはコンドーム。

療 信

若者の性感染症で
あす公開セミナー

福井会議所で

性感染症について考える公開セミナー「若者と性の健康」（福井新聞社後援）が二十九日、福井市の福井商工会議所で開かれる。

クラミジアや梅毒、淋菌感染症、エイズなど、特に十、二十歳代に広がる性感染症の実態を知ってもらおうと、エイズ予防財団が開く。

福井愛育病院の鈴木秀文・産婦人科部長は妊婦らの症例を発表。福井市明道中の養護教諭、西野和代さんは学校の性教育の現状を報告する。全国的な傾向や展望などについての講演、パネルディスカッションもある。

午後一時半から四時半まで。問い合わせは、事務局の福井医科大産科婦人科学教室 ☎0776(01)833921まで。

[一つ前へ](#)

[一つ後へ](#)

[ニュース一覧へ](#)



ニ ュ ー ス

福井で性感染症セミナー（●3月29日午後5時30分）

性感染症について考える公開セミナー「若者と性の健康」(福井新聞社後援)は二十九日、福井市の福井商工会議所で開かれた。国の研究者や県内医師らが、若年層にまん延する性感染症の現状を報告。「国内、県内でも流行している」などと警鐘を鳴らした。

クラミジアや淋菌(りんきん)感染症、エイズなど、若年層に広がっている性感染症の実態を知ってもらおうと、エイズ予防財団が本県で初めて開いた。学校、医療関係者ら約百四十人が参加した。

発表では、十一二十歳代でまん延しているクラミジアに意見が集中。厚生労働省エイズ予防研究班の主任研究者、熊本悦明氏は「クラミジアは男性十九万人、女性で九十一万人が感染している。特に女性は(身体的に)感染しやすいが、無症状で気付かないケースが多い」と説明。木原正博・京都大教授は、クラミジアなどの性感染症が引き起こすエイズ感染に警鐘を鳴らしながら「先進国でエイズ患者が増えているのは日本だけ。二〇一〇年には五万人以上に達する」と推定し、コンドーム使用率の低迷や、不特定多数と性交渉する”性的ネットワーク”の広がりを問題点に挙げた。

また、福井愛育病院の鈴木秀文・産婦人科部長は、性感染症や人口中絶の件数が全国レベルに近づいている傾向を紹介し「本県でも若年層で性行為の敷居が低くなり、出会い系サイトなどを介した中学生の性感染症も出てきた。五―十年後に不妊症や子宮外妊娠の影響が出てくるだろう」との見方を示した。福井市明道中の養護教諭、西野和代さんからは、総合学習で進められている性教育について説明があった。

[HOME](#)